

ウリハムシ（ウリバエ）の防除

きゅうり、カボチャ、ズッキーニ等のウリ科野菜に成虫が飛来し、体を回転しながら葉の表面を浅く輪状に食害するため、多発すると葉がボロボロなる。

ウリハムシは防除困難な害虫で、効果的防除方法はなかなかない状態。

虫の生活史

集団で成虫越冬する

草むら、石垣の隙間、建物の陰 等で越冬

春暖かくなると越冬場所から離れ、ウリ類が植えられると、その株元に産卵する

1か所当たり数十個の卵を産む。1雌当たりの産卵数は100～500個で、産卵は4月下旬～7月上旬、最盛期は6月上旬頃。

幼虫は、白いウジで、根を食害しながら成長する

孵化幼虫は細根を食害し、成長するにつれ太い根や株元の茎にもぐり込んで食害する

土中の比較的浅いところに土繭をつくって蛹となる

幼虫期間は3～5週間で、3齢を経過し、蛹期間は1～2週間。

新成虫は7～8月に現われ、年1回の発生

成虫被害は、5月と8月に集中

9月下旬頃から越冬場所へと移動する

対策のポイント

- (1)成虫を見つけ次第捕殺する。虫の動きがのろい温度の低い午前中の方が効果的。
- (2)成虫の飛来侵入を防止する。(可能であれば、防虫ネットや寒冷紗等を利用)
- (3)成虫を確認したら、5日間隔で3回程度農薬散布を行う。

農薬名	きゅうり	すいか	メロン	カボチャ	ズッキーニ	とうがん	にがうり
マラソン乳剤					×		
ダイアジノン粒剤3					×	×	×
モスピラン顆粒水溶剤					×		
スタークル顆粒水溶剤							

平成25年3月31日現在の農薬登録情報に基づいています

注) 登録あり ×登録なし ウリハムシでは登録無いが他の害虫の防除を兼ねてダイアジノン粒剤3は、ウリハムシ幼虫防除(植付時)

- (4)シルバーポリフィルムによるマルチを行ない、成虫の飛来侵入を防止する。成虫の忌避効果がそのまま産卵防止効果につながる。
- (5)臭いを嫌うネギ類を苗の直ぐ側に植えつける(コンパニオンプランツ)